

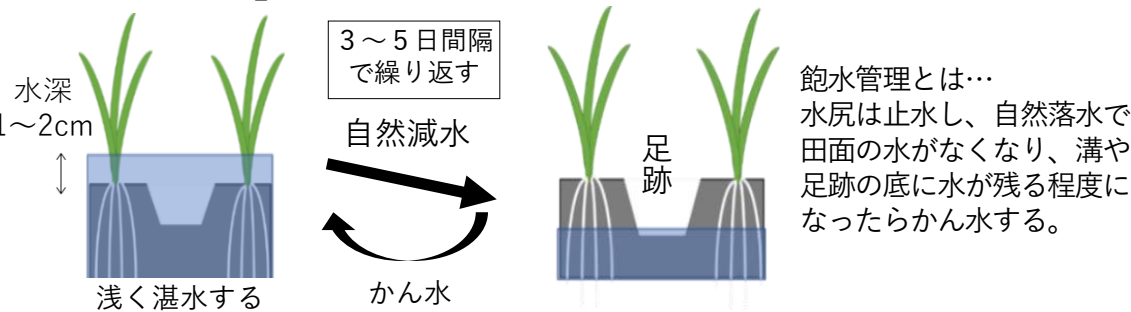
1 回目穂肥は生育診断、2 回目穂肥は確実に施用

- 今後も高温が続くと予想されています。異常高温に備え、適切な水管理と穂肥で後期栄養を確保し、収量・品質を安定確保しましょう。
- 1 回目穂肥は生育診断により時期と量を判断し、倒伏を防ぎましょう。

1 中干しは終了し、飽水管理に移行

- 葉色のさめが早く、強すぎる中干しは、根を傷め品質の低下につながる恐れがあります。中干しを終了し、飽水管理に移行しましょう。

【飽水管理の方法】



2 コシヒカリの出穂期予想と穂肥時期のめやす

- 出穂期は、近年（過去10年）と比べて1日程度早まる見込みです。

田植日	出穂期予想	1 回目穂肥時期 (出穂18日～15 日前)	2 回目穂肥時期 (出穂10 日前)	3 回目穂肥時期(出穂3 日前) ※高温が予想される場合は施用
5 月15 日	8 月1 日	7 月14 日～7 月17 日	7 月22 日	7 月29 日
5 月20 日	8 月3 日	7 月16 日～7 月19 日	7 月24 日	7 月31 日
5 月25 日	8 月5 日	7 月18 日～7 月21 日	7 月26 日	8 月2 日

※ 同じ田植日でも、山間地では、上表より出穂期が2～3日程度遅れます

※ 地域によって、気象条件やほ場条件が異なるため、生育状況を確認してください。

3 コシヒカリの穂肥対応の考え方

(1) 1 回目穂肥は生育診断をしてから施用（出穂期18～15 日前）

- 1 回目穂肥時期が早すぎると節間が伸長し倒伏が助長されるので、幼穂長で適期を判断しましょう。また、もみ数過剰による品質低下を防ぐため、稲姿に合わせた穂肥量としましょう。

表 1 1 回目穂肥時の稲姿と施用のめやす

1 回目穂肥時の稲姿 (出穂期18 日前)	穂肥対応の 考え方	穂肥施用のめやす	
		施用時期	窒素施用量
生育めやす 草丈：72cm 葉色(SPAD)：35	基準どおりの 時期・量を施用	出穂期18 日前	1.0～1.5kg /10a
めやすより草丈長く 葉色淡い	遅めに施用	出穂期15 日前	1.0 kg/10a

表 2 幼穂長と出穂期前日数のめやす

出穂前日数	24	20	18
幼穂長 (cm)	0.1	0.1	0.5～1

1 回目穂肥めやす

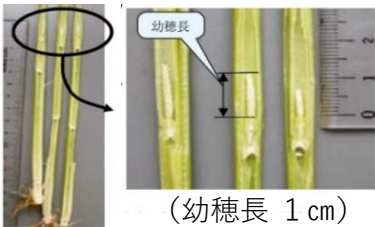


図 1 回目穂肥施用時期の診断方法

(2) 2回目穂肥は必ず施用し、後期栄養を確保（出穂期10日前）

- 出穂期10日前に窒素成分で1～1.5kg/10aを施用しましょう。
- 草丈が長く、1回目穂肥を施用できなかった場合でも、後期栄養確保のため、2回目穂肥は必ず施用しましょう。（2回目穂肥は下位節間の伸長に影響しません）

(3) 出穂期後の高温が予想される場合は、3回目穂肥を施用



2回目穂肥は必ず施用し、高温登熟に備えよう！

(4) 基肥一発体系の場合

- 葉色が急激にさめ、出穂期の葉色（SPAD）が32～33を下回ると予想される場合は、出穂期10日前に追加穂肥を施用しましょう。

4 斑点米カメムシ類対策を徹底しましょう



- 水田畦畔での斑点米カメムシ類の発生が平年より多くみられています。
- 農道畦畔の草刈は、イネ科雑草が結実しない間隔（約3週間程度）で行いましょう。
- 刈った草は用水や河川へ流さないよう注意しましょう。

水田内のノビエやホタルイの穂は、斑点米カメムシ類の増殖源となります。水田内で見つけた場合は直ちに除去しよう！



5 農作業中の熱中症を防ぎましょう

(1) 猛暑日が続く真夏日以外も注意が必要です

- 熱中症リスクは、暑さに慣れていない初夏における高温日や梅雨明けで暑さが本格化する時期などにも高まります。

(2)熱中症を予防するには

- こまめに休憩し、水分補給しましょう
 - ・ 日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着は脱ぎ、手足は露出するなどできるだけ体温を下げましょう。
 - ・ のどが渴いていなくても、水分・塩分を補給しましょう。
 - ・ 水分補給は、20分おきにコップ1～2杯以上を目安に行いましょう。
- 単独作業は避けましょう
 - ・ やむを得ず単独作業を行う場合も、時間を決めて携帯電話で定期的に家族や知人と連絡を取り合いましょう。



つばの大きい帽子や、吸湿速乾性の衣服、空調服などのアイテムを活用して、熱中症対策をしよう！

【QRコードを読み取り稲作情報を確認しよう】

JA魚沼 北魚沼地区
営農情報（LINE）
はこちら →



魚沼農業普及指導
センターHP稲作情報
はこちら →



お問い合わせ先
J A 魚沼北魚沼基幹営農センター
025-793-1770
魚沼農業普及指導センター
025-792-1309

こまめな水分補給で、熱中症を予防しましょう。農作業事故に気を付けましょう。